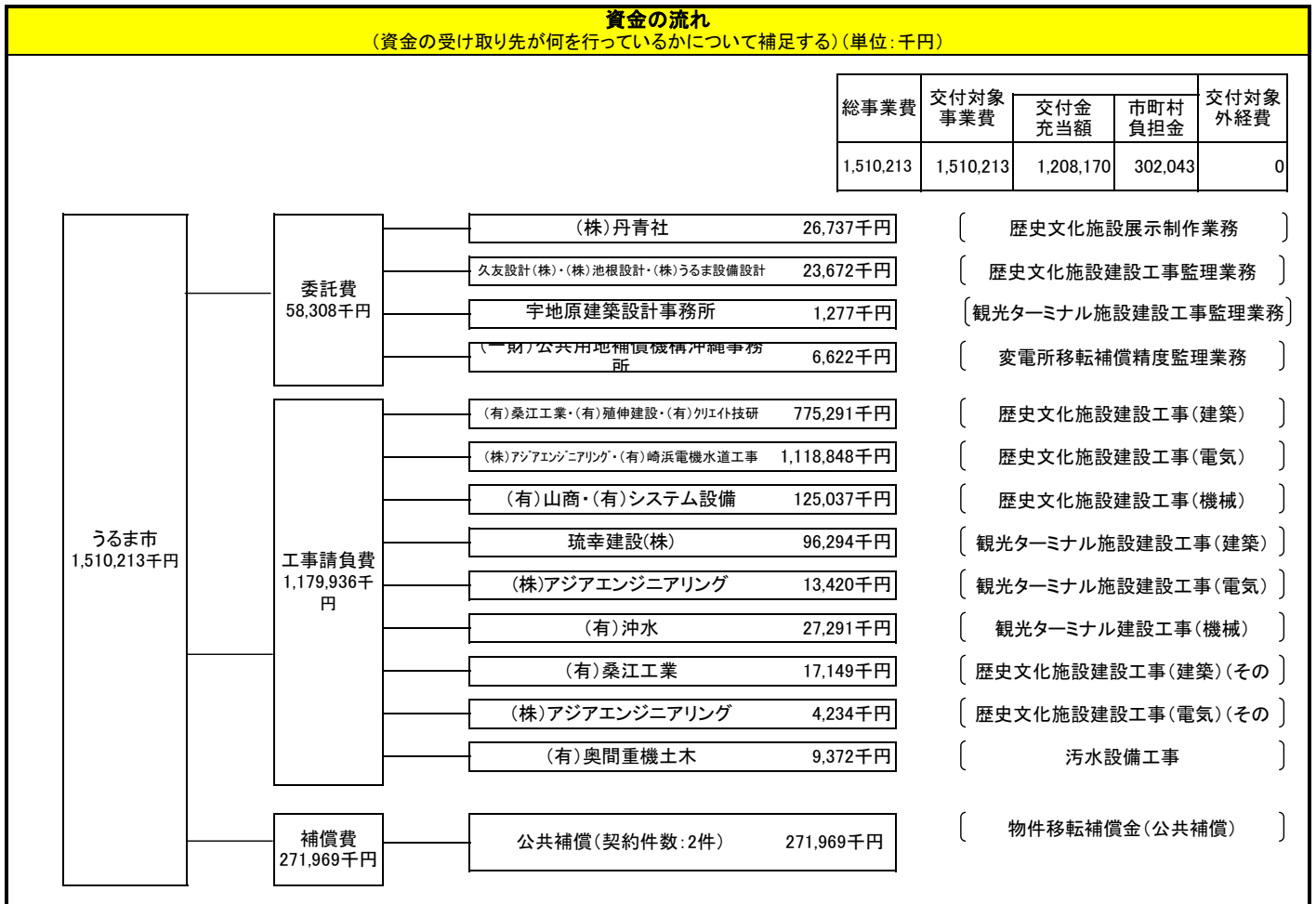


市町村名		うるま市					
令和元年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4	勝連城跡周辺文化観光拠点整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(5)-ア		
	担当部課名	都市建設部 勝連城跡周辺整備室	事業実施(予定)年度	平成24~令和3年度	沖縄振興基本方針該当箇所	文化資源を活用したまちづくり Ⅲ-3-(2)	
事業内容	世界遺産として登録されている勝連城跡の周辺に体験・交流を含めた複合的な文化観光拠点施設を整備し、観光客の誘客を図る。						
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和4年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	H30年度	H30年度(繰)	R1年度	R1年度(繰)	R2年度	
		(a)当初予算額	753,612	-	1,440,719	-	
		(b)予算現額	703,313	-	1,616,077	-	
		(c)増減額(b-a)	▲ 50,299	-	175,358	-	
		(d)繰越額	0	50,050	0	771,995	
		A.計(b+d)	703,313	50,050	1,616,077	771,995	
		B.執行済額	593,611	43,867	740,049	770,164	
		うち交付金充当額	474,889	35,094	592,039	616,131	
		次年度繰越額	50,050	0	771,995		
		執行率(%) (B/A)	84.4%	87.6%	45.8%	99.8%	#DIV/0!
予算の状況の説明		当初計画(歴史文化施設建設工事(建築、電気、機械)、歴史文化施設展示制作業務、観光ターミナル建設工事(建築、電気、機械)、沖縄電力変電所移転補償(公共補償))を実施し、事業の進捗を図るため、予算を増額した。H30年度事業は、被補償者が実施している設計について道路管理者との調整に不測の日数を要したため、R1年度に繰越した。また、補償費について、当初想定していたよりも費用が安価となったため不用が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	<ul style="list-style-type: none"> 歴史文化施設建築工事 観光ターミナル建築工事 歴史文化施設展示制作業務 用地取得 物件移転(公共補償) 		目標 (実施)	(実施)	()	()	
		実績	実施	実施			
達成状況説明		R1年度は計画どおりの工事、展示制作、物件移転を実施した。					
成果目標(指標)及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値(年度)	H30年度	R1年度	R2年度	目標値(R4年度)
	<ul style="list-style-type: none"> 歴史文化施設建築工事 観光ターミナル建築工事 歴史文化施設展示制作業務 用地取得 物件移転(公共補償) 		目標 ()	(完了)	(完了)	()	()
			実績	完了	完了		
	【R4成果目標】年間入場者数25万人		目標 ()	()	()	()	(25万人)
			実績				
進捗状況説明		R1年度は計画どおりの工事、展示制作、物件移転を完了した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	入口広場整備工事について、指定管理者の意見を可能な限り反映し工事施工を行う。	指定管理者との早期の調整を行い、速やかな工事発注を行う。
今後の取り組み方針		
<p>・指定管理者にて管理予定であるため、今後の工事についても指定管理者と調整し円滑な発注を行う。</p> <p>・R3年度に取得する用地(物件移転補償含む)について、被補償者への事前説明を早期に着手し契約締結後は速やかに物件移転(除却)に向けて円滑な用地取得を進めるように取り組む。</p>		



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○支出先については、内容に即した競争入札や随意契約により適切に選定している。</p> <p>○補償費に関する算定精度の向上により不用が発生したものの、予算規模は適正であったと考えている。</p> <p>○費目、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	